

デジタルの究極は、アナログだ！

いつもご指導いただいている中澤弘幸師（先代黄檗売茶流家元）が、「デジタルの究極はアナログだよ」と、事も無げに仰いました。

多くの社長が、目前に迫った、AIの時代をどう生きるのか、どう対応すべきか、最新の情報を仕入れるべく、高価なセミナーに参加し、焦っている時に、ふっと我に返えらせてくれるひと言です。

この黄檗売茶流は、18世紀に“売茶翁”が、京の景勝地で茶を、煎じ売り出すという、当時としては、前代未聞のスタイルを築き上げました。伊藤若冲・池大雅らが、集まり文化人を魅了したそうです。

売茶翁は「ただのみも勝手、ただよりはまけもうさず」と、茶代は、決まっていないという、これも風流・酔狂です。

21年前、大阪で「関西素行会」という勉強会に、毎月1回、10年間続けて参加させていただきました。代表で、主催者である、越智直正師が、自分の会費を支払っておられるのです！“人間学を語るのに、高い報酬を取るとは道に反する”という事を、言外に感じさせていただいた瞬間でした。口幅ったいですが、私も、その道は、守らせていただいています。

さて、我々社長は、事業経営を、あまりにも合理的・論理的・合法的を追い求め過ぎて疲れ切っているのではないのでしょうか？

スピード・効率・費用対効果・コスト削減・安売りが善と思いきって来ました・・・その結果、我々は、幸せが増したのでしょうか？一人一人の社員の眼は、輝いているのでしょうか？お客さまは、我が社、我が社員に感謝して下さっているのでしょうか？

30年前と比べて、いかがでしょうか。どうも、どこかで道を誤ったようです。近道のつもりが、迷路に入ったようです。

“来てみれば さほどでもなし 富士の山 釈迦も孔子も かくやあるらん”

長州の村田清風が、語ったそうですが、正しい解釈はともかく、近づき過ぎて、本来の姿を見失っているのが、現在の我々の姿ではないでしょうか。

“宇宙第一の書が論語”と語った伊藤仁斎や、生涯、論語一本で貫き、道を誤らなかつた渋沢栄一に、今こそ立ち戻りましょう。そして、笑顔を増やし、利益を増やし、時間を増やし、健康を増やして参りましょう。



今月のポイント

行くに徑に由らず